



芝山小だより



10月号

清瀬市立芝山小学校

校長 寺井 俊敬

<http://www.kiyose.ed.jp/>

秋のさわやかな風に乗って

副校長 本間 章郎

日頃、本校の教育活動にご理解ご協力をいただきまして、誠にありがとうございます。

朝晩は少し涼しくなり、芝生の上を渡る風も入れ変わりました。校庭に立つ銀杏の色づいた実が、ひとつふたつと芝の上に落ち、秋の訪れを感じます。

さて、暑さがおさまり、過ごしやすくなる10月は、学習や運動などにじっくりと取り組むのによい季節です。今週は演劇鑑賞教室を行いました。物語の内容はもちろんのこと、劇団員の方々の歌や発声、表現力に魅了されました。きっと子供たちの心は豊かになったことと思います。また、今月は、清瀬教育の日、ふれあい運動会、読書週間など、児童一人一人が自分なりの目標をもち、互いに協力し合って取り組む活動を予定しています。

芝山小の子供たちは、芸術の風、学習の風、運動の風、読書の風と、彩り豊かな風に乗って、元気に過ごしています。

読書の風に乗って ～ 芝山小 読書週間 10月19日～10月29日 ～

本校では毎週金曜日を「全校読書」として、朝学習の時間に一人一人が自分の読みたい本を手にとり読書に取り組み、静かな時間が流れています。今月の19日からは、今年度2回目の読書週間が始まります。「多くの本に親しむことで読書の楽しさを味わい、読書の習慣を付ける。」「友達や先生方の本の紹介を読んだり聞いたりして、読書の幅を広げる。」という目的のもと、期間内は月曜日や木曜日の朝学習でも読書活動を行います。読書記録をカードに記入したり、教員や図書委員会による本の紹介なども行ったりします。

読書活動を通して育まれる力はどのようなものがあるでしょう。知識、読解力、語彙力、想像力、表現力、集中力…。これらの力は読書をしているときに子供自身が実感する力もあれば、別の学習機会や生活場面で実感したり生かされたりする力でもあります。

国立青少年教育振興機構が今年の8月に公開した「子供の頃の読書活動の効果に関する調査」によると、子供の頃の読書量が多い人は、そうでない人よりも非認知能力などが高い傾向がある、という結果が報告されています。非認知能力とは、点数や指標等で数値化できない力のことで、「意欲」「協調性」「粘り強さ」「コミュニケーション能力」「自己肯定感」などです。「非認知」ですから、明確に測定できないかも知れませんが、自分の目標に向かって努力したり、他者とかがかわり合ったりしながら生きていく上で、大切な資質・能力と言えます。

子供たちの中には、読書が好きな子供がいれば、反対にあまり好きではない子供もいます。その理由は様々です。「うちの子はあまり本を読まなくて…、どうしたら読むようになるのか…」と保護者の方からお話を伺うことがあります。保護者の方が思い出の一冊の本を読み聞かせしたり、思い出の一冊の本について語ってあげたりする、というのはいかがでしょうか。

【一冊の本との出会いで、これまでとは少し違う新しい自分になれる。】

子供が「読んでみようかな」と思ったときに本がある環境が、読書の習慣化につながるかも知れません。

過ごしやすくなってきたこの頃です。少し時間をつくって、本を読み聞かせしたり、一緒に本を読んだりして、心地よい「読書の風」に乗ってみてはいかがでしょうか。